

SEASON START



Team Information 2009

SEASON START 2009

■ SPECIAL 開幕記者会見

■ 1部リーグチーム紹介
 阪南大学
 びわこ成蹊スポーツ大学
 関西大学
 関西学院大学
 同志社大学
 京都産業大学
 桃山学院大学
 大阪学院大学
 大阪教育大学
 立命館大学
 大阪体育大学
 大阪産業大学

SEASON START

関西学生サッカーPRESS
 開幕特集vol.2

2009年4月11日発行

表紙：川西翔太(大阪体育大学)

【Photo: Nozomi FUjita】

目次：【Photo: Maho Hisazumi】

■ STAFF ■

EDITOR IN CHIEF

久住真穂

WRITER

ハヤシヒロヒサ

深江友樹、寺島琴美

(UNN 関西学生報道連盟)

谷川あす香、大穴野剛柔

(関学スポーツ)

伊藤紗由里(同志社スポーツアトム)

谷口達也(京産大アスレチック)

藤本康寛

藤田望



デンソーカップ優勝を果たした関西選抜A



5位と健闘した関西選抜B

【Photos: UNN 関西学生報道連盟】

2009年度 第87回 関西学生サッカーリーグ 前期 日程表

節	日程	時間	対戦	会場
1	4/11(土)	11:00	開会式	大阪長居スタジアム
		12:00	阪南大-大産大	
		14:30	びわこ大-大教大	
	4/12(日)	11:30	関学大-大教大	鶴見緑地地球技場
		14:00	関西大-立命大	
		11:30	京産大-桃山大	山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場
2	4/18(土)	14:00	同大-大産大	
		11:30	同大-桃山大	高槻市立総合スポーツセンター
		14:00	阪南大-大教大	
		11:30	関西大-大教大	高槻市立秋谷総合公園サッカー場
		14:00	びわこ大-大産大	
		11:30	京産大-立命大	三木総合防災公園陸上競技場
3	4/25(土)	11:30	大教大-大教大	鶴見緑地地球技場
		14:00	阪南大-立命大	
		11:30	関学大-同大	大阪長居スタジアム
	4/26(日)	14:00	関西大-大産大	
		11:30	京産大-大教大	
		14:00	びわこ大-桃山大	山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場
4	5/2(土)	11:30	関西大-京産大	鶴見緑地地球技場
		14:00	阪南大-大教大	
		11:30	関学大-大産大	山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場
		14:00	びわこ大-大教大	
		11:30	桃山大-立命大	西京極総合運動公園補助競技場
		14:00	同大-大産大	
5	5/5(水)	11:30	関学大-京産大	高槻市立秋谷総合公園サッカー場
		14:00	阪南大-大教大	
		11:30	関西大-大産大	高槻市立総合スポーツセンター
	5/6(水)	14:00	びわこ大-立命大	
		11:30	桃山大-大教大	
		14:00	同大-大産大	鶴見緑地地球技場
6	5/9(土)	11:30	関西大-大教大	鶴見緑地地球技場
		14:00	阪南大-桃山大	
		11:30	京産大-大産大	三木総合防災公園第2陸上競技場
		14:00	関学大-大教大	
		11:30	同大-立命大	山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場B
		14:00	びわこ大-大教大	
7	5/16(土)	11:30	立命大-大教大	西京極総合運動公園補助競技場
		14:00	阪南大-京産大	
		11:30	同大-大教大	山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場B
		14:00	びわこ大-関西大	
		11:30	桃山大-大産大	鶴見緑地地球技場
		14:00	関学大-大教大	
8	6/13(土)	11:30	大教大-大教大	新時代センター(アパ(パコ)ビル)芝生技場
		14:00	大教大-大産大	
		11:30	びわこ大-関学大	三木総合防災公園陸上競技場
	6/14(日)	14:00	阪南大-同大	
		11:30	京産大-立命大	
		14:00	関西大-桃山大	西京極総合運動公園補助競技場
9	6/20(土)	11:30	大教大-立命大	大阪長居第2陸上競技場
		14:00	桃山大-大産大	
		11:30	びわこ大-京産大	大阪長居第2陸上競技場
	6/21(日)	14:00	阪南大-関学大	
		11:30	大教大-大産大	
		14:00	関西大-同大	三木総合防災公園陸上競技場
10	6/27(土)	11:30	立命大-大産大	大阪長居第2陸上競技場
		14:00	大教大-大教大	
		11:30	関学大-桃山大	大阪長居第2陸上競技場
	6/28(日)	14:00	阪南大-関西大	
		11:30	京産大-大教大	
		14:00	びわこ大-同大	山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場
11	7/4(土)	11:30	大教大-大産大	鶴見緑地地球技場
		14:00	大教大-立命大	
		11:30	関西大-関学大	神戸総合運動公園ユニバー記念競技場
	7/5(日)	14:00	阪南大-びわこ大	
		11:30	桃山大-大教大	
		14:00	同大-京産大	鶴見緑地地球技場

※全試合有料(大人:1000円、中学生:400円、小学生以下:無料)

但し、第4節～8節は高槻市として、また第2節、第9節の三木会場も高槻市により無料)

SEASON START ～戦いの幕開け～

記者の2009年シーズン開幕戦展望

4月6日に開かれた2009年シーズンの記者会見で、監督やコーチ、主将のコメントを聞く事が出来た。加えてこの冊子では、2月中旬から取材を重ねてきた。ここでは、記者会見やこれまでの取材を基に開幕6試合を展望する。

—阪南大 VS 大産大—

昨年の王者に昇格組が挑む構図。阪南大は、須佐監督が「ディフェンスがまだ課題。」と言うように、吉川や野田がリーグに入団して抜けたDFの整備がまだ完全ではないようだ。それでも、「中盤の東福岡勢を中心としたタレントは攻撃力がある。」と同監督は期待感も抱いており、東主将も「攻撃的に臨みたい。」とあくまで攻めて勝つ狙いか。

対する大産大は、昇格の中心となった学年が卒業。攻撃の軸であった安里も卒業し、全体的に不安が残る。櫛引監督も「残留が目標。」と現実的。西之宮主将も「突出した選手がいないので、全員サッカーで。」と強気ではないものの、まとまりで勝負したい意向だ。「阪南には入替戦で負けた記憶もまだ強いので、そのリベンジの気持ちを持って。」と力強く語り、チームワークで金星を狙う。

—びわこ大 VS 大体大—

監督が変わり、サッカーのスタイルにも変化のあるびわこ大。確かに他大学同様に主力は卒業したが、スタイル的に個人に依存するやり方ではないので、影響は少ないか。望月新監督も「1年間を通して、選手の成長を観たい。」とじっくりとした構え。石部主将が「大体大とは、同じスポーツ系の大学の対決になるので、負けたくない。」とプライドを覗かせた。

大体大の松本主将や、MF村田が「主力があまりに抜け過ぎたのは不安。」と話すように、偉大な足跡を残した先輩の卒業後にどんなサッカーをすべきか、迷いはあったはず。それでも、去年とは全く別のチームであることを受け入れ、「引かず攻めたい。」と松本主将は語る。体育大学ダービー、老舗の看板は汚せない。

—関学大 VS 大教大—

人工芝グラウンドがようやく誕生し、環境も整備されてきた古豪・関学大。高田主将は「その環境や、周囲の方々の理解に感謝してサッカーをしたい。」と気持ちの大切さを述べた。関学大のサッカーはボールを脱ぐまでは分からないが、関西で唯一3バックを取り入れており、また3トップの可能性もある。そこに昨年まで相手に嫌がられたファイトする姿勢と、覚醒したMF阿部が加わり今年も上位を狙う。

大教大は、去年は「通年制が我々には幸いした。」と入口監督が語ったように、後半戦に大きく盛り返した。「しっかり守って、カウンター。」と大久保主将も述べるように、スタイルも変わりなし。ただ、カウンターの仕留め役の三好が怪我で開幕戦がギリギリ。場合によっては、森原のワントップで挑むことになるか。それでも主力が多く残り、継続性のあるサッカーが出来るのは強み。

—関西大 VS 立命大—

島岡監督が語るように、常に「日本一」を全員の目標として戦う関西大。今年も、関西選抜に多くを送り込んだ才能集団であり、他チームの監督からは「関西大は強いよ、今年も。」とリスペクトされる存在。清水主将も、慢心には気を付け「常にチャレンジャーで。」と初戦に挑む姿勢に驕りは見られない。

立命大の米田監督は「今年は主将である福本が中心になって戦えれば。そして、最後は笑っていたい。」と抱負を語る。福本主将も、「関西大には勝ちにいきたい。」と強気の弁。勝利への武器となる左サイドの攻撃は健在で、そこに決定力の高いFWが育って来た立命大。選手個々の素材では、関西大に見劣りはしない。福本主将のリーダーシップの下、開幕戦は勝ちのみを狙う。

—京産大 VS 桃山大—

「今年も300キロの走りこみをして、鍛えて来ました。」と古井監督。もはや京産大名物となった走りこみ。それが昨シーズン後半の安定に繋がった。走力が付いたことはもちろん、それを成し遂げたという自信が大きい。稲本副将も、「走り勝つサッカーをしたい。」と口にする。スピードのある選手を前線に配した、速くてタフなサッカーが観られるか。

桃山大の松本監督は、「大学サッカーの“ぬるさ”を排除するために努めた。」と精神面での向上を図ったことをストレートに表現。まだ完全ではないが、良い方向に向かっていると言う。原主将は、「初戦は当然勝ちにいくが、自分たちの内容をしっかり確かめたい。」とまずは、地盤を固めたいという気持ちを表した。メンタルタフネスは育まれているか。

—同大 VS 大院大—

新チームになってから、練習試合、公式戦(新人戦と京都府選手権)とずっと白星を並べている同大。選手たちが「1つの集大成の年。」とし、望月監督も「戦術理解がかなり深まっている。」と手応えを感じている。絶対的な存在のMF楠神がリーグの練習参加でフル参戦出来ないことを見越してのチーム作りもしてある。大森主将の言うように「今の好調な流れを活かす。」ことが出来るか。

大院大は、藤原監督が「今季は6位狙い。」と謙虚。しかし、去年から藤原監督は、冷静に自分たちの力を見極めている。チームのピーキングをまだ先に置いているのは本心だろう。それでも、加藤主将は「ピッチ上では戦。必ず勝つ。」と勝利への強い執着を見せる。勝利は、去年から残ったセンターラインが仕事をするかにかかっているだろう。

以上、6試合を展望して来たが、勝敗の予想は難しい。去年は開幕スロースタートに見えた阪南大が一気に加速したように、開幕だけでは占えない部分も大きい。それでもチームのサッカースタイルは見えるし、やはり気持ち良くシーズンに入るためにも開幕戦のウェイトは小さくない。12大学の個性が、スタジアムで火花を散らす姿を楽しみたい。(文:サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)



Action Football



阪南大学

主将 東 浩史

阪南大のファンタジスタ・東。彼から繰り出されるパスは柔らかく、美しい。プレーでも人々を魅了する東主将に、話を聞いてみた。



Q、今年のチームの特徴を教えてください。

「去年は、リーグ優勝など良い結果が出ました。それで正直、プレッシャーはありますね。でも、“今年は今年”と捉えて、自分たちのサッカーをするだけです。特徴としては、攻撃的な選手が多いです。去年はチームとして得点が少ないのもっとゴールを取りたいと思っています。」

Q、阪南らしさとは？

「そうですね・・・地域一帯として取り組んでいる部分じゃないですか。グラウンドを一般にも貸していますし、OPENなチームだと思います。定期的ではないですが、最近ではキッズスクールや、清掃活動も始めました。自分たちのことだけでなく、色んな人に恩返しできる活動をしていきたいと思っています。」

Q、強くなるために何が必要だと思いますか

「個人としての能力は持っている選手が多いです。その中で、それをどう合わせていくかだと思います。昨年の守備陣が抜けたので、今年、昨年以上を目指すには守備の意識を高めることが重要だと感じています。」

Rookie DF 橋本純希

高校ラストイヤーにJユースカップ優勝を果たした大型ルーキーが阪南大に加入。一言、語ってもらいました。

Q、阪南大に来たきっかけを教えてください。

「関西選手権、総理大臣杯をテレビで見ました。負けたけれど、良いサッカーをしているなと思ったのがキッカケです。チームに合流してみて、先輩たちが優しく、みんな引っ張ってくれるので、やりやすいですね。ユース時代とは違って、ディフェンスラインが高くて最初戸惑うこともあったのですが、今はだいぶ慣れてきました。」

Q、橋本選手の得意なプレー、意気込みをお願いします！

「キックやヘディングです。試合に出たら、見てください。練習から全力でやっていたらメンバーに入れると思う。試合に出て、チームに必要な選手になりたいです！」

昨年、鉄壁を誇った守備陣が卒業した事情で、新人にして経験豊富な橋本が開幕戦から起用されるかもしれない。今年は、背番号20のルーキーに注目したい。



Pick Up Player

熱き闘志を秘めたドリブラー！ FW木原正和

Q、総理大臣杯準優勝、リーグ優勝、インカレ初戦敗退。去年をどう振り返りますか。
「去年はとにかくメンバーが良かったです。意識が高くてやるべき仕事ははっきりしていました。大学生活の中で一番楽しいシーズンでした。」

Q、去年の総理大臣杯、早稲田戦でのプレーに、物凄い気迫を感じました。

「早稲田と聞いたら、燃えるじゃないですか。かつては兵藤(横浜Fマリノス)もいましたし。テンションが上がりました。健太くん(愛媛FC)が倒れた試合でもあったので、みんな頑張るしかないと思死でしたね。」

Q、木原選手の強みは何でしょう。

「ドリブル、それもスピードに乗った。そして、それをシュートまで持っていく形ですね。」



Q、もちろん目指すはJですよ。

「小さい頃からの夢だったから、行きたいです。まだ練習参加には至ってないですが、チームで必死に頑張れば見てもらえると思うので、まずはチームが勝つことを考えてやっていきたいです。」

Q、デンソーカップ優勝など充実した春休みでしたね。

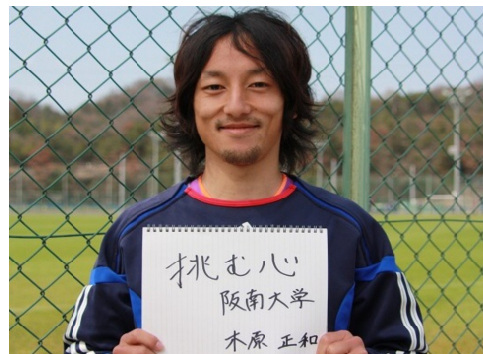
「デンソーはインフルエンザで1週間出遅れたこともありましたが、何とか最後は優勝出来て良かったです。選抜では、みんなうまいから楽しいし、楽しくサッカーをすることを改めて実感しました。課題としては、20分ハーフの試合でどれだけ自分を出せるか。そういう点では、関東Bは短い間のプレッシャー、球際の早さなどが印象的でした。でも関東、関東と言われることが“なんでや”と思うところがありますし、引き分けたのは悔しいですね。実を言うと、関東Aともやりたかったです。」

Q、ヨーロッパ遠征・日韓戦はどうでしたか。

「ドイツでブンデスリーグ2部のチームと3連戦、2部練習、そしてセルビアへ移動して2試合。ユニバーシアードの会場も全部見ました。最後は、未熟さを痛感した日韓戦。僕は体が小さいこともありますが、強い体とプレッシャーはまだまだ向こうの選手に及ばない。今年一年もうちょっと強くしていきたいですね。」

Q、ハードですね。ところで、他に関西から選ばれた選手はどんな様子でしたか。

「そうですね、相当きつかったです。内野は、最初出れなかったのですが、強さとキックが監督に認められて。ドイツの3連戦でもボランチとして出場しました。田中は、最後日韓戦は出ましたが、怪我に苦しみました。二人とも他のメンバーに負けずに頑張っていましたよ。」



Q、今、チームの調子はどうでしょうか。

「チームに合流したのは遅かったですが、東からは調子良いよと聞いていましたが、今日のような結果(京都サンガF.C.に0-5と敗戦)です。明らかに去年と違う部分があるというか・・・まだ意識もちょっと甘いと感じています。個人個人の差を感じるの、その差を無くしていけないと強くなれないと思います。」

Q、木原選手が感じた問題点とは。

「やはり守備ですね。特にセンターバック争いが激しい。1年の(橋本)純希とか風格もありますし、頑張ればレギュラーになれると思います。あとは(金)泰弘が引っ張ってくれるともっと良くなる。もっと声を出してくれると変わるはずですよ！」

Q、最後に今年に賭ける意気込みをどうぞ！

「今年一年は本当に最後なので、自分のプレーを全て出し切れたら悔いはないと思うので、4年間の集大成をぶつけていきたいです。去年と比べられがちですが、“挑む心”を常に持っていれば怖がることない。リーグ優勝、インカレを目指して、今年こそは全部勝って、監督を喜ばせたいですね。」

阪南が生んだエース木原選手のインタビューノーカット版は、関西学生サッカーPRESSのブログで近日公開！ドリブラー木原の誕生秘話、意外な憧れの選手とは！？お楽しみに！

阪南サテライト完成！！

3月1日、阪南大学高見の里グラウンドに、2つ目の人工芝ピッチが完成した。1つ目のコートと隣に出来、実に素晴らしい環境と言える。付属高校や一般の方が使用することもあるが、女子部もないため、ほぼサッカー部専属。

また、3月下旬には新しくクラブハウスが完成した。こちらは2階建てで、ウエイト場・ロッカー・ミーティングルームなどが完備されており、飲み物も飲み放題となっている。早々と利用した他大学の選手からも「快適」と声上がるほどの充実し



た設備だ。サッカー部専用事務所もあり、環境面では、関西No. 1ではないだろうか。今年は関西選手権で会場になっており、豪華な施設を見ることが出来る。

【担当記者より】

2008年関西学生サッカーリーグ初代年間王者に輝いた阪南大。Jリーグにも4人が入団し、育成面でも関西随一の成果を出していると言える。関西選抜には、木原、井出口、棚橋、東、長瀬と5人選ばれ、全国の猛者たちと戦ってきた経験はチームにとっても貴重な財産になったことだろう。

攻撃は今年も磐石だが、鉄壁を誇った守備陣が抜けたことは大きい。木原もインタビューで語るように練習試合でも簡単に抜かれる場面があり、やや不安を抱えている。橋本など新たな選手の成長が、リーグ2連覇への鍵となる。(久住真穂)



主将 石元太元

大所帯を率いる主将・石部元太。キッズリーダーとしても活躍する彼に今年のびわこ大について聞いてみた。

Q、今年はどうなチームですか？

A、「今年は“なないろ世代”ですね。色々な考えを持った人が多く、個性豊か。個人の技術も高いので、まとまれば本当に強いと思います。いかに一丸となって戦えるかが勝負になります。主将としてフォローシップを優先し、みんなを同じ方向に向かっていけるようにしたいです。」

Q、望月さんが監督に就任し、新体制になりましたね。

A、「ずっとコーチとして見てくれていたので練習自体は変わりません。今年は人とボール、スペースが動くサッカーを目指しています。春は部員約200人全員をカテゴリーに分けず、1からチームを作り直しました。」

Q、ズバリ、目標は？

A、「日本一です。昨年のインカレで全国の壁を痛感しました。だから今年は“FOOTBALLER'S HIGH”とチームスローガンに掲げ、練習から死ぬ物狂いで取り組んでいこうとしています。日本一という目標を達成していきたいです！」



キッズサッカー普及活動中！

スポーツ大学として、サッカー選手ではなく指導者を目指す選手も多いびわこ大。その中でも開学当初から特に力を入れているのがキッズ年代のサッカー教室だ。滋賀県サッカー協会と提携して行っており、幼稚園などはサッカー協会からチケットを購入。その後、キッズリーダーの資格を持ったコーチが滋賀県サッカー協会から依頼を受け、派遣されるという形になっている。

びわこ大サッカー部には35人(昨年度)のキッズリーダーがおり、湖西地区を担当。現在15園、およそ500人の指導に当たる。これはサッカー部としての取り組みではなく、指導者を目指すキッズリーダーたちが独自に活動しているのである。びわこ大も独自に「キッズサッカーフェスティバル」を開催し、積極的に子どもや保護者との交流を図っている。また石部、篠部が考案したキッズ体操は関大の「関体」とはまた違い、子どもたちが楽しくアップできる内容になっている。

現在滋賀県はキッズサッカー普及率日本一。滋賀県の幼稚園生の半分は何らかの形でキッズサッカーを体験したことがあるという。「いずれはキッズ～びわこ大まで一貫教育となれば」と石部。未来への構想は膨らむばかりだ。少子化が叫ばれている昨今、こうした活動に積極的に取り組み、大学サッカーの活性化にも繋げていきたい。



Pick Up Player

びわこ大を引っ張る4回生 “なないろ世代”インタビュー！



MF 小池遼 DF 山田尚幸

Q、昨年を振り返って

小池「リーグで2位に入って、インカレに初めて出れて全国の舞台を味わえたというのは大きいですね。でもそこで“差”を感じました。でも差がある分、もっと高められるとも思いました。」

山田「リーグではフル出場できたことはよかったです。でもインカレに出て、上には上がいることを痛感しました。もっと努力しないと全国で活躍できないと感じた一年でした。」

Q、差というのは？

山田「フィジカルや勝負強さであったり・・・流経大とはよく試合をするのですが、インカレでも見てやっぱりうまいと思いました。関西ではそういう部分で、関大がうまいと思いますが、それでもまだ差があると感じました。」

小池「そういう部分を埋めていくためには、

チーム全員が練習から高い意識を持って取り組むことが最低条件だと思いますね。」
Q、話は変わりますが、互いの良さはどこでしょうか

山田「遼は、左足で場を一変させる大砲のようなキックですね。やるときはやるんで、サッカーでスイッチがはいったらすごい。あとは、もっとミドルシュートを打ってほしいですね。」

小池「山田はムラがない。“良い”と思えるときが多いんです。あとは体力。それがフル出場にもつながっていると思います。そして相当な負けず嫌い。甲斐と良い勝負ですね。」

Q、今年の抱負をお願いします。

小池「もう一度、全国の舞台に立って日本一になりたい。そして“びわこらしく勝つ”。個人的にはアシスト王狙います！」

山田「今年もフル出場です。そして無失点かつ得点にも絡んでいきたいです！」



F W 篠部拓真 MF 瀬古朋宏

Q、昨年はどのような一年でしたか

瀬古「不完全燃焼。試合に出ても満足いく

結果を残すことができなかったですね。」

篠部「リーグは楽しかったけど、インカレは悔しかった。自分自身、初めての全国大会で高校の監督にも“やってこい”と言ってもらったのに、参加しただけでした。」

Q、ライバル選手には“負けたくない”というものはありますか

瀬古「小5～中3までフットサルをやっていて、今でも映像を見ます。テクニックは試合でも使えるなあとイメージが作りやすいです。心がけていることは、練習が終わってから自主練習。好きやからやっても楽しい。」

篠部「小2～中2まで少林寺拳法をやってきました！今は、授業・キッズサッカー・練習、すべてにおいてサッカーに生きることを心掛けています！！」

Q、大学サッカーラストイヤーの意気込みをどうぞ！

瀬古「まずは卒業単位をとって。。サッカーでは厳しいけど、楽しい。そして勝っていきたいです。」

篠部「うまくなること、去年の結果に負けないうこと。賞も獲りつつ、JFL、J2狙います！」

小池、山田、篠部、瀬古、平野の“なないろ世代”インタビューノーカット版は、関西学生サッカーPRESSのブログで近日公開！お楽しみに！

～びわこからJへ！～ F W 平野甲斐

今年、びわこ大の顔となる男・平野甲斐。高速ドリブルでサイドを駆け上がり、最後までボールを必死に追う姿は「雑草魂」を感じさせる。自ら『甲斐さま』と言い、「学連のパンフレットの表紙は俺ですよ！」と冗談のような発言をする平野の天然でかつ底抜けに明るい性格は、びわこ大や関西選抜Bを盛り立てた。

だが、平野は決してビックマウスなだけの選手ではない。昨年は「アシスト王、絶対獲ります！」と宣言し、有言実行。今年の目標は、「年間MVP」とライバルたちに挑戦状を叩きつけた。「甲斐はとにかくすごい。五分のときに



でもマイボールにしてくれるし、色んな意味で頼もしいですね。」(山田)とチームメイトも認める熱きハートを秘めたプレーヤーなのだ。

今年は平野イヤーになること間違いなし！

【担当記者より】

昨年、インカレ初出場を果たしたびわこ大。初めての全国大会は悔やまれる結果となったが、何物にも代え難い経験を得た。今季は創部当初から監督を務めた松田氏が総監督となり、これまでコーチだった望月氏に指揮監督が交代する。松田総監督が築き上げた「守備から」のサッカーをベースに、望月監督のカラーが加わる。

昨年は2人のJリーガーを輩出したびわこ大だが、船津のような攻守に渡りバランスのとれる絶対的な選手は不在。しかし、2008年関西学生サッカーリーグアシスト王に輝いた絶対的エース平野甲斐が攻撃の核となり、また守備陣には大学選抜の内野がいることも心強い。注目選手としてインタビューした四回生も昨年から中心選手として活躍し、経験豊富。新生びわスポから目が離せない。

(久住真穂)



一日本一へ向けて



関西大学

主将 清水孝太



輝かしい伝統と毎年コンスタントに結果を残す実力。さらにはサッカーを通じた社会貢献活動。関西学生サッカー界を常にリードしている関大を引っ張るのはこの男、清水孝太だ。

Q、新チームが始動しました。去年との大きな違いは何でしょうか？

A、「去年は翼くん（大屋翼・現ヴィッセル神戸）っていうスター選手がいて、それに頼ってた部分があった。でも今年はみんなで一つのことをやっていこうとしていますね」

Q、戦い方は具体的にどう変わりますか？

A、「翼くんが中盤でアクセントをつけてくれてたけど、それがなくなって、もっとシンプルにみんなでパスを回していきます」

Q、春合宿の成果はいかがでしたか？

A、「関東のチーム相手に1勝1敗2分け。関東との差を感じた。もっとやらかなあかん、と気持ちの面で得るものがあった」

Q、昨年のインカレでは1回戦で国士館にPK戦負けしました。今年にかけの気持ちを教えてください

A、「あの負けた悔しさを持続させたい。ここ最近タイトルを取れてない。OBや応援してくれる方からの期待は感じている。去年の主力が4年生になるので、今年は集大成。もちろん優勝を狙います！」

Rookie 田中裕人

今年G大阪ユースから入学した大型ルーキー、田中裕人。

春合宿で金久が負傷したため、代わりにボランチを務めている。

Q、関大進学を決めた理由を教えてください。

A、「関大が関西ではすごいいって聞いてて、実際に去年のリーグ戦を見て決めました。」

Q、プレーの持ち味を教えてください。

A、「泥臭いプレーですね。守備的なボランチで高校2年のときからやってて、相手のボールを奪うプレーが得意です。でもこれからは攻撃にももっと絡みたいです」



【担当記者より】

取材に訪れると東コーチに「一緒に関体踊りましょう！」と誘って頂いた。今までは取材する側で踊ったことはなかったが、予想以上に楽しかったし、意外としんどかった。「結果だけが全てじゃない。大事なのは内容。だから人間関係を重視するし、こうやって踊っている」と指揮官は笑顔で言い切る。4年間しかない大学生活。サッカーを通して、様々な活動を行い得た経験は、優勝トロフィーよりも輝くのかもしれない。

（深江友樹）

Pick Up オフザピッチ

オンザピッチだけでなく、オフザピッチでも「全員サッカー」を掲げる関大。

競技面ではトップレベルにあることはいわずもがな。そこで、今回は関大のピッチ外のトピックに焦点を当てた。

◆もはやお馴染み！？関大体操「関体」◆

昨年度リーグ戦18節、対びわこ成蹊大のハーフタイムにお披露目した「関体」。もともとは順天堂大が練習前に行っていたものをアレンジし、関大オリジナルの振り付けを編み出した。

練習前のウォームアップだけでなく、人間関係を良くするためにやっている。互いに教えあい、みんなで一緒に踊ることでチームの一体感につなげる。「関体を関大の体育会全員で踊るのが夢」と島岡新監督。サッカー部内だけでなく、もっとたくさんの人とつながるキッカケにするのが目標だ。

◆地元の子供たちとのサッカースクール◆

日曜の朝、そして月曜の夕方。関大のグラウンドで子供たちの笑顔が弾ける。関大千里山キャンパスの近くに住む園児や小学生を招き、サッカーの指導を行っている。スクールにはトップチームメンバーも参加。チーム全員で指導にあたり、サッカーを通して地元の子供たちと触れ合っている。

「純粋にボールを追うことの大切さに気づかされる」と清水主将。勝ち負けだけでなく、サッカー本来の楽しさを再確認したという。去年からサッカー部主体で始めたが、今年からは大学側のサポートを受けられることも決まった。スクールに来た子供たちがリーグ戦を見に来てくれば、大学サッカー界の振興にもつながる。サッカースクールはずっと続け

ていく予定だ。

◆ライバルチームともやります、合同練習会◆

この春から始めたのは他大学サッカー部との合同練習会。2部3部のチームだけでなく、1部チームとも一緒に行うという。「うちは隠すことなんて何もないから。選手は『こんな練習もあるんや』と勉強になるし、マネージャーも勉強になることがある。関西学生サッカー界のレベルアップにつながれば」と島岡監督は話す。

3月27日には大教大を関大千里山キャンパスに招いて合同練習会。練習前に1時間恒例の「関体」を行い、ミニコートでのボール回しなどを行った。練習後には大教大の大久保主将と島岡監督がサッカー戦術について話し込むシーンも見られた。

他にも関大は、淀川河川敷の大掃除など、社会貢献活動に精力的だ。オンザピッチでは全員でパスをつなぎ、高い技術を武器に戦うポゼッションサッカー。オフザピッチではチーム全員が社会のためにできることを一つずつ取り組む。選手としても人間としても、関大は両方で頂点を目指していく。



関西制覇へー

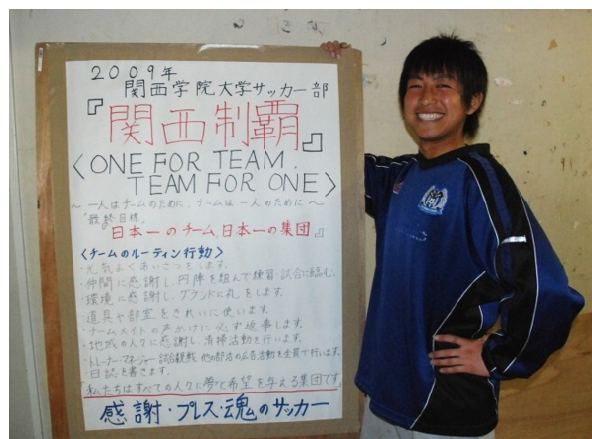
関西学院大学

主将 高田博元

関学サッカー部の新主将は高田博元。自らが長所と話す「サッカーへの情熱・責任感・コミュニケーション能力」を強みに、関学サッカー部を牽引する。

今季、関学が目指すのは「徹底したプレスサッカー」での「関西制覇」。数多くの練習試合をこなし、プレスサッカーの確立をはかっている。また、週2でミーティングを開くなどコミュニケーション面も充実しているという。高田主将は、「目指しているところまでとはいかないが、だんだんよくなってきている」とチーム状況の良さを口にした。

「全国に名をとどかせる第一歩の年」。高田主将は、今季に向けてそう意気込んだ。「みんなに夢と希望を与えるチームにしたい。応援も何もかも本気でやります」。熱き闘将が関学サッカー部を「関西制覇」へと導く。



Rookie 井林 章

チームの目標「関西制覇」を手繰り寄せる大きな力となる精鋭・井林が、関学サッカー部へやってきた。彼は今年の高校サッカー選手権で日本一に輝いた広島皆実高校出身。数々の輝かしい功績を収めてきた。彼の一番の持ち味は体の強さ。DFとして大きい訳ではないが、大型選手に全く引けを取らない。さらに、定評のある競り合いの高さ、正確なロングボールなどにも大注目だ。そんな彼が関学を選んだのは、「自分のレベルに適していて、プロを目指すために、しっかり自分を磨くことができる所。」と考えたから。また、関学サッカーの特徴でもあるプレスサッカーに共感を抱いていたからであった。今年一年間の目標は「とにかく試合に出ること」。夢を実現するための挑戦が始まる。



【担当記者より】

「今年の関学は違う。」そんな印象を強く受けた今回の取材。素晴らしいリーダーの下、部員一人ひとりが成長でき、チームにとっても飛躍の年となることは間違いない。加茂監督に質の高い指導を受ける彼らが、関西最強のプレスを完成させ、いかに上手く機能させるか。今年、待望の人工芝のグラウンドが完成し、さらにチームの士気も高まる関学。彼らの魂のサッカーは見逃せない。

(谷川あす香、大六野剛柔、寺島琴美)

Pick Up Player

進化し続ける男たち DF 志田野雄一郎 MF 阿部浩之

最終ラインからチームを統率する志田野、そして、2年生ながらも関学の攻撃の軸となり活躍する阿部に話を聞いた。

Q、お二人とも、関西選抜で素晴らしい活躍をされていますが、何か得たものなどありますか？

志田野「周りがうまいので、1回1回の練習、試合がいい経験になっている。DFとしていかにコンパクトに守れるか。ラインコントロールや速いプレッシャーの中でどれだけいい判断をできるのかなど勉強になる。やっていてとてもおもしろい。」

阿部「関西のうまい人ばかりが集まっていてやりやすい。みんな自分に自信をもってプレーしているので、自分も見習っていききたい。うまい人のプレーを近くで見て、盗んで自分も成長できる。」



Q、今は、どんなことに特に力を入れて取り組んでいますか？

志田野「今の時期は、体力と個人をいかに伸ばせるかが重要。いかに完成させるかが鍵を握る。チームとしてプレスの完成度を高めたい。そして、組織で守るということを詰めていけたらいいと思う。後、今年はプレスで取ったボールをどうつなげるか、マイボールにする時間を増やしていきたい。」

阿部「チームとしては、プレスを大事にしている。前の選手が走って、はまらないと始まらないので、頑張っていきたい。攻撃の面で去年は、個の力での得点が多かった。今年は個のカプラスコンビネーションで、相手には簡単に止められないサッカー、より得点力もアップさせて、おもしろいサッカーができるように、意識してやっていきたい。個人的には、去年の得点、アシストを超えるために食欲にいきたい。」

Q、今年は、どんな一年にしていきたいですか？

志田野「入学してから一度も関西制覇をしたことがないから、最後の集大成として今年は、リーグでも優勝目指して選手権も1位、天皇杯でも1位で全国に出たいという気持ち強い。個人的には、関学は若いチームなので下の学年を引っ張っていきけるようなプレーをしていきたい。」
阿部「まずチームの関西制覇。個人の役割としては、ゴールへつながるプレーで勝利を引き寄せたい。まだ、チームを引っ張るまでには至らないが、監督



やコーチに信頼されて使ってもらえていると思うのでプレーで関西制覇に貢献していきたい。」

Q、今年の試合でココを見てほしいというところは？

志田野「ヘディングと戦う姿勢を見てほしい。」

阿部「ゴールに向かう姿勢、シュートなどゴールにつながるプレーを見てほしい。去年できていなかったディフェンスや球際も頑張っていきたい。」

Q、最後に意気込みをお願いします！

志田野「何が何でも関西制覇して、全国大会に出たい。チーム最小失点を目標にしている。関学サッカー部全員で勝って、喜びを共有していきたい。」

阿部「チームで関西制覇して、全国へ行きたい。去年のように優秀選手などタイトルを狙っていききたいし、出られない選手からも応援してあげたいと思われるような気持ちの入ったプレーをしたい。」

日本一の実現へ向けて

新プロジェクト始動。先を見据え、日本一への土台作りをするべく関学は動き出した。今年は関西制覇。そして5年以内には日本一。この目標達成を考えたとき、技術の向上だけではなく、組織としても成長していく大切さを強く感じた部員たち。今年から「感謝の気持ち」を軸に、地



域の清掃活動、サッカースクールの実施に取り組んでいる。既に2月からは月に1度、関学周辺の清掃を実施。新グラウンド建設で協力して頂いた地域住民の方々への感謝を示し、さらなる信頼関係を築き上げられるよう地域貢献に努めている。また、サッカースクールを通じて地域の子どもたちとの交流も計画。サッカーの楽しさを知ってもらうと共に、地域に根差したチームになることを目指し、有志で結成された「サッカースクール実行委員会」が中心となり活動している。結果としても、組織としても日本一を目指す彼ら。最高のチーム作りに余念はない。

サポートは俺たちに任せる トレーナー 濱・中西

選手のケアやサポートはもちろんであるが、代々笑いの面で体を張り、チームを盛り上げることも関学サッカー部のトレーナーの重要な役割だ。コミュニケーションを積極的にとり、チームの雰囲気作りにも気を配る。また、質の高いサポートを行うために、プロの勉強会などにも参加するなどスキルアップも欠かさない。チームが最高の状態で力を発揮するために一。何事にも、彼らは全力で挑み続ける。





TOI,TOI,TOI!!!

EIN SCHOENER SIEG!



同志社大学

主将 大森一樹



同志社不動のボランチとしてチームを支えて来た大森がキャプテンに就任。個性派集団をいかにまとめるか、舵取りに注目。

Q、チームをどのように引っ張りたいですか。

A、「これまでの同志社は、AチームとBチームがやっているサッカーに違いがあった。まずはそのギャップを修正したい。」

Q、チームのスタイルは。

A、「守備に関しては、前線からのプレスですね。ショートカウンターがはまれば理想的です。攻撃は、中央に起点を置いてサイドを広く使うパターンを基本にしたいと考えています。」

Q、同志社と言えば、自由奔放なサッカーのイメージもありますか。

A、「バランスをしっかり取りたいですね。創造性は絶対に残す。そこに型を上手くミックスさせたい。観客に魅せるプレーと勝つプレー、難しいですが、両立させたい。」

Q、目標は。

A、「日々の練習に100%の力で取り組む事。様々な結果は、それに付いて来るはずです。」

同志社期待のRookies!!



◆FW井上太志(滝川第二高) ドリブル突破が持ち味!

◆FW木島祥(滝川第二高) シュートを磨きたい!

◆FW杉山健太(清水商業高) 右足のシュート!

【担当記者より】

タレント集団・同志社の最初のピークが今年である。昨年の最終節の後、望月監督も、「来年は結果。」と口にされていた。まずは幸先良く新人戦を制し、京都選手権も三連覇した同志社。今年は、望月監督も、更に自身の戦術理論の浸透を図りながら、これまで通りクリエイティブな部分も残す狙い。同志社でレギュラーポジションが予想出来るのは4つくらいである。その他は、ハイレベルなレギュラー争いが繰り広げられる。場合によっては、FWなどは1年間ずっとレギュラーが固定されないかも知れない。その週に調子の良い選手を使うといった具合に。魅了するサッカーで、昨年の上位を倒せるか。スペクタクルとリアリズムの折り合いに注目したい。

(ハヤシ ヒロヒサ、伊藤紗由里)

Pick Up Player

関西の至宝、ラストイヤー！ MF 楠神順平



3月から川崎フロンターレにJFA・Jリーグ特別指定選手として加わる事になった楠神。すでに川崎フロンターレの練習にも参加しており、今年の関西で最もJ1に近い選手である。対戦した相手が、「別格」「別次元」と口を揃えるテクニシャン。野洲で全国制覇した時にもサッカーファンに鮮烈な印象を残したドリブルは、大学でも健在。最終学年を迎え、リーグに臨む楠神に話を聞いた。

Q、川崎フロンターレの練習に参加して感じた事は。

A、「やれると感じた部分もあったが、やはり局所の強さ・速さが違う。そこは、慣れもあるけど、やはりプロになるにあたって意識しておかないといけない。」

Q、この1年をどう過ごしたいですか。

A、「まずは、プロで通用する体作りやプレーを心掛けたい。ハードワーク出来ないと話にならないので、そういったプレーに重点を置きたい。もちろん、自分の特長である、ドリブルやパスのアイデアはどんどん活かしたい。」

Q、チームとしての目標は。

A、「まだ全国を経験してないので、その舞台に立ちたい。ただそのためには、日常の練習の積み重ね。大切なのは、練習に対する意識。」

Q、副主将にも就任しましたが、どんな事を意識していますか。

A、「プレーでチームを引っ張りたい。そのプレーも自由な発想で、観ている人に印象を与えたい。」

Q、代名詞となっているドリブルですが、最近ではファウルで止められる事も増えました。対策は考えていますか。

A、「ドリブルを使う場面と使い方ですね。無理して使わず、相手を引き寄せて周りを使う事も考えます。そのことによって次のドリブルがし易くなる。後は、無理に仕掛けてファウルをもらえる事もあるので、それも味方のチャンスになりますし。」

Q、最後に。関西選抜としてデンソーで優勝しましたが、全国の選手と戦ってみてどうでしたか。

A、「巧さなら、関西選抜はどこにも負けてなかったと思う。強さや粘りは厳しかったです。特に関東と九州が。でも、良い緊張感の中でサッカー出来た事がプラスの経験ですね。」

関西選抜Aの10番として、デンソー優勝に貢献した楠神。今後、複数のJクラブの練習に参加して将来を決めるだろう。その前に、同志社の司令塔として、チームに歓喜をもたらしたい。



選手同士で勝手にやっちゃいました！ ★なんでも1番ランキング★

◆スピードNO.1

飯島(ファッションリーダー。)

◆ドリブラーNO.1

楠神(神。)

◆フィジカルNO.1

福岡(先輩が苦手。)

◆ロングスローNO.1

中祖(XJAPANとスローインをこよなく愛する。)

◆ムードメーカーNO.1

中谷(名物応援団長。)

◆面白さNO.1

新妻(R-1優勝を目指す。)

◆まとめ役NO.1

大森(筋肉もNO.1。)

◆モテモテ度NO.1

菅谷(いちいちかっこいい。)

◆学業成績優秀NO.1

畑(i-podで中国語会話を聴く。)

◆忍耐強さNO.1

辰田(国見出身のサイドバック。ケガに気付かない。)

◆うるさいNO.1

三浦(声のでかさと足の速さはもはや妖怪。)

◆太ももNO.1

林(太すぎて部室の入り口につっかえる。)

◆頭のでかさNO.1

早坂(ヘルメットが入らない。)

◆ふてこいNO.1

堀ノ内(先輩後輩関係なくふてこい。)





RUN! RUN! RUN!!

京都産業大学

主将 金本竜市

今年の主将は、野洲高の主将として全国制覇の経験もある金本竜市が就任。新しいチームをどのように引っ張るのか、話を伺った。

Q、主将として心がけていることは何ですか？

A、「厳しい練習の中で、雰囲気が悪くなる時もあります。そんな時こそ、みんなでタフに前向きに頑張っていけるように盛り上げていくことです。」

Q、去年は前半の低迷と後半の躍進がありました。今年はどうに戦っていきますか。

A、「去年の前半不調だったのは慢心があったと思います。今年の新4年は去年ほとんど怪我で出なかったこともあって、その点は大丈夫です。失敗はもう繰り返しません。一人一人が、気持ちでもプレーでも目の前の敵に負けないように闘います。」

Q、最後に目標をお願いします。

A、「目標はリーグで3位以内に入ってインカレ出場です。4年間大学でサッカーやってきたから、最後の最後まで夢を見ないと。見て一緒に熱くなって貰えるようなプレーをするんで、応援よろしくお願いします。」



今年も、ユニフォームに注目！

京産大のユニフォームといえばヒュンメル。毎年、同社の最新モデルのユニフォームを採用して、デザインを変更している。これはメーカー側の意向と共に、毎年レギュラーが若い背番号を背負うように変えて、競争心を煽る意味があるようだ。



更に今年からは、胸にスポンサーがついた。新しいユニフォームも選手のモチベーションを高めるのに一役買っていると言えるだろう。

【担当記者より】

昨年は前半戦でどん底を経験したものの、後半戦は驚異の巻き返しを見せて最終的に6位で終えた京産大。初の通年リーグで、その利点を最大限に生かしたチームの一つと言えるだろう。今年は、渡邊将基(現・サガン鳥栖)を筆頭に、チームの要を占めていた4回生が抜け、その穴をポテンシャルの高い1回生を起用することで埋めようとしている。例年以上に若いチームとなるが、速さと運動量の京産大サッカーに、上手く1回生をフィットさせ、一気に勢いに乗ることができるか。(谷口達也)

Pick Up Player

京産大のNO. 10 FW 小笠原侑生



関西選抜Bに選出され、先日のデンソーチャレンジカップに参加した小笠原侑生。今やチームの中心選手に成長した彼に話を聞いた。

Q、まず、関西選抜に参加されていたか。

A、「京産大から久しぶりの選抜ということもあって、京産大を代表するぐらいの気持ちで頑張ってきました。」

Q、課題や収穫はありましたか？

A、「やっぱりみんな上手いので刺激になりましたね。その中で生き残るために、京産大の特徴であり自分の持ち味でもある、豊富な運動量やがむしゃらさを出してプレーすることを心がけました。」

Q、続いて、チームの現状について教えてください。

A、「去年のレギュラーは4回生が多くて、みんなしっかりした人たちでした。その人たちが抜けてキツいけど、その分みんなでカバーしてやっていこうとしています。」

Q、戦術面はどのような感じですか。

A、「去年の秋に成功した、引いて守ってカウンターで攻めるサッカーをベースに、質を高めていきます。そのために、オフは徹底的に走って運動量を上げています。1日12km走った日もあったし、トータルで300kmは走っているはずです。」

Q、今年は1回生のFWが多く入部しましたか。

A、「今年に限らず、毎年たくさんFWの選手が入ってくるので、良い刺激になっていますね。ポジション争いが激しくて気が抜け

ないのが、自分の成長に繋がっていると思います。」

Q、将来のプランは？

A、「今はプロしか考えてないです。1回生の頃は試合に出れなくて、もう大学でサッカーは辞めようかと思ったけど、2回生になってレギュラーを掴んで、選抜に選ばれたことで自信を持てるようになりました。」

古井監督によると、「小笠原は調子に乗りやすいタイプ」だとか。それは逆に言えば、勢いづくとも止まらないということ。強気の姿勢を結果に結び付けることができるか。京産大の新しい10番の更なる成長に期待したい。



京産大期待のRookies!!



DF 西口 諒(野洲高)【左上より】

1.最後まで声を出し、諦めない根性。 2.日本一!!

MF 富田 慧(野洲高)

1.ドリブル。 2.プロになる。

MF 松永 俊吾(野洲高)

1.パス、ドリブル。 2.プロになること。

FW 佐々木 一輝(徳島商業高)

1.ドリブル。 2.全国制覇。

FW 中川 裕介(徳島商業高)

1.フィジカルの強さ、ヘディング。2.目指せJリーガー。

FW 原 孝徳(筑陽学園高)

1.ヘディングの競り合い。 2.プロになる。

FW 内匠 亮太(履正社高)

1.スピードのある飛び出し。 2.日本一。

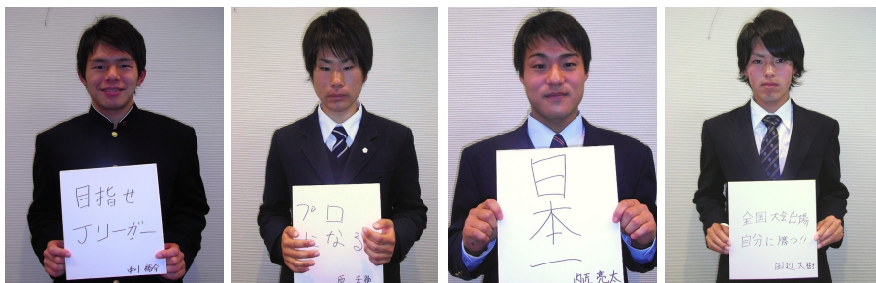
FW 田辺 大樹(清明学院高)

1.縦への突破、ヘディング。2.全国出場、自分に勝つ!

※ 1、得意なプレー 2、目標

今年の京産大は有望な新入生が多い。毎年1回生を積極的に起用する京産大だが、今年は特に多くなりそうだ。中でも、野洲高でキャプテンを勤めた西口、U-18日本代表候補に選ばれた佐々木、俊足が武器の内匠は、いきなりレギュラー候補として監督からの期待も大きい。西口は「最初は走る量の多さにビックリした」と語るように、豊富な運動量で走り勝つ京産大スタイルに戸惑ってはいたが、「ここでCBとして成長してプロになりたい」と向上心の高さを見せた。京産大からのプロ入りは、高木和道(現・ガンバ大阪)、渡邊将基(現・サガン鳥栖)とCBの選手ばかり。同じポジションの西口も、偉大な先輩たちに続くことができるか。

京産大が旋風を巻き起こせるかは、1回生がチームに早くフィットして活躍できるかどうか鍵となる。





Harder and Harder



桃山学院大学

主将 原祥太郎

チームメイトからの投票で信任を得た原祥太郎が今季の主将を務める。昨シーズン7位と、揮わなかった桃山を主将としてどのように引っ張っていくかに期待。

Q、まず、主将としてどのようなチームにしていきたいですか？

A、「繋ぐとこは繋いで守るとこは守ってと、基本を大切にしたい。ピッチの中でも外でも、最低限のことができるチームのしたい。」

Q、主将に就任する際に、前主将から何かアドバイスをいただきましたか？

A、「前キャプテンからは、『キャプテンはぶれるな。ぶれたらダメ。自分の考えをもってたほうがいい。』とアドバイスをもらいました。」

Q、現在のチーム状況を教えてください。

A、「練習内容も雰囲気も去年よりはいいかなと思います。」

Q、では、最後に今シーズンへの意気込みを。

A、「今年はやります！1つ1つ勝ちを積み重ねて優勝したい。どんなチームにも勝っていききたいです。」



佐藤貴則コーチに聞きました

今年度、新たにセレッソ大阪から桃山学院大のコーチに就任された佐藤コーチにお話を伺いました。

Q、桃山大の選手の印象はですか？

A、「ポテンシャルは持っているけど、それを上手く生かせていないという感じですね。」

Q、選手からは、コーチが来られてから練習の緊張感が増したという声が多いですが。

A、「基本を整理して、練習中から試合に繋がるような指導を心がけています。選手のほうからも、自分たちで何とかしようとする意識は出てきていますね。」

Q、今後、どのような選手を育てていきたいか教えてください。

A、「戦える選手を育てたいです。メンタルの強さにこだわっていききたい。そういう面では、桃山の選手はこれからですね。」



Pick Up Player

桃山大が誇る 守備の要！ DF 中山修二 DF 宮内豪

1対1に強く桃山のディフェンスラインを支えるDF中山。そして、空中戦・前線へのフィードに定評があり、関西選抜としても活躍したDF宮内。今季、桃山の守備の要となる2選手を取り上げる。

Q、昨シーズンを振り返ってみてどうですか？

中山「(チームとして)まとまりがなく、みんなやろうとしてもうまくいかず、自分らで空気わるくして…。いいシーズンじゃなかったですね。」

宮内「勝てなかったのが素直なところ。みんなでやろうやろうてなっても、1つのミスで落ちたりして。バラバラでした。」

Q、では、それを踏まえて今季のチームとしての目標は？

中山「1試合1試合、大事にしていきたい。自分らも見てる人も楽しい雰囲気で行きたいですね。」

宮内「今年は2008年よりも勝ちにこだわっていききたいです。1つ1つを積み重ねて、勝



DF 中山修二

利に導いていきたい。」

Q、現在のチームの状況は？

中山「セレッソから新しいコーチが来て、空気が変わりました。練習も楽しいです。」

宮内「スタッフも結構いて、充実してます。コーチ・スタッフの距離も遠くないです。」

Q、自分のここを見てほしいというプレーは？

中山「走る！運動量ですね。チームのために頑張ります。」

宮内「コーチング。あと、ヘディングですね。」

Q、そして最後に、今シーズンへの意気込みをお願いします。

中山「繋ぐところは繋ぐ、切り替えて全員で守る。奪われたら取り返すなどまとまりを大切にやっていきたい。個人としては、楽しくやりたいです。」

宮内「自分たちのサッカーをめいっぱいやりたい。まずは勝つ。プレーよりもまず、気持



DF 宮内豪

ちで相手に勝る。失点しても崩れず、自分たちのサッカーを貫き通したい。」

【担当記者より】

近年、思うような成績を出せずにいる桃山大。チームがその原因の一つに挙げる指導者数の不足を、セレッソ大阪から2人、OBから1人、計3人の新たなコーチを招聘することで埋めた。新体制の元で、チーム内の意思統一を図り、充実した練習に取り組んだ成果を出せるか。バックアップ体制が整った今年こそ、選手たちの真価が問われることとなる。(谷口達也、寺島琴美)

桃山大期待のRookies!!



【写真左上から】

FW 中東 優治(セレッソ大阪U-18)

- 1.ポストプレー、ヘディング。
- 2.トップの試合に1つでも多く出て、日本一になりたい。

DF 谷口 功(鹿児島実業高)

- 1.ヘディング、コーチング、対人プレー。
- 2.早く試合に出れるよう頑張ります。

DF 朴 斗翼(神戸科技高)

- 1.ヘディング、球際の強さ。2.優勝したいです！

MF 宮下 航(広島皆実高)

- 1.球際の強さ。2.少しでもAチームに絡めるよう頑張りたい。

MF 松本 翼(筑陽学園高)

- 1.キックの精度。2.チームに貢献できるプレーをしたい。

DF 面家 康生(セレッソ大阪U-18)

- 1.守備的なポジションなら、どこでもできる。
- 2.上級生に負けず、チームの勝利に貢献したい。

MF 菅原 鉄平(静岡学園高)

- 1.チームのために汗をかくこと。
- 2.チームのために自分ができることを見つけて実行したい。

FW 羽柴 直哉(東大阪大学柏原高)

- 1.中盤以外ならどこでもできる。2.精一杯頑張ります。

DF 谷尾 一樹(ヴィッセル神戸ユース)

- 1.積極的な攻撃参加、豊富な運動量。2.全力でプレーします。

※1.自分の持ち味。2.意気込みを一言。



主将 加藤健太

今季の主将は、新4回生の投票で信任を得た加藤健太が務める。関西選抜にも選ばれ、充実したシーズンインを迎えている加藤主将に、話を聞いた。



Q、まず、キャプテンとして、どのようにチームを引っ張ってゆきたいですか。

A、「自分は、多くを話す方ではないので、声や檄を飛ばしてまとめるタイプではないと思います。それよりも、プレーでチームを鼓舞するキャプテンでありたいと考えています。」

Q、まだチーム作りの段階ですが、今季の大院大について教えてください。

A、「上手くかみあつたら、かなり良いチームになると思います。今季は、ポゼッションサッカーを目指したい。スター選手は居ないですが、チームワークを重視したいですね。試合では、必ずしんどい時間が訪れるので、そこを踏ん張れるチームになれるかどうか。システマ的には、おそらく4-4-2の中盤ボックス型になると思います。とにかく、相手より走り勝ちたいですね。」

Q、目標は。

A「やはり、全国優勝に、夏も冬もからみたいです。そして、観てくれている人たちに強い印象を与えるサッカーを目指します。」

Rookies 得意なプレーをヒトコト!



DF 碓 学人(尾関学園高): ヘディング、気持ち

MF・FW 戸井田 怜鷹杜(埼玉栄高): スピードに乗ったプレー

FW 前田 侑弥(津工業高): ドリブル

FW 嶋田 大二(静岡学園高): 前向きのドリブル

DF 飛田 純希(作陽高): ハードワーク

DF 澤津 雄太郎(暁高): オーバーラップ

GK 太田 岳志(暁高): キック、長身をいかしたプレー

DF 久保 卓哉(大阪桐蔭高): キック、ビルドアップ

FW 木村 伸之(大阪桐蔭高): 貪欲にゴールを狙う

Pick Up Player

攻めの岡村、守りの吉井 大院大躍進の鍵！！

D F 吉井直人

D F 岡村和哉

今季、下級生主体でリーグ戦に挑む大院大。しかし、チームの大黒柱は、4回生の攻守のリーダー。昨年は、CBからFWまでをこなし、チームの救世主的存在になった岡村。そして守備の要で、その能力の高さに評価の高い吉井。

当然ながらJを目指す2人を取り上げる。

Q、まずは、チームの現状について教えて下さい。

岡村「若いチームですね。間違いなく下級生が主力になるはずですよ。システムは4ー4ー2ですが、それもまだ仕上げてゆく段階です。」



活躍が楽しみな吉井(左)、岡村(右)

吉井「守備についてですが。約束事や、基本的な守備のスタイルは、本当にまだ試行錯誤中です。これから、シーズンまでに作ってゆかなければなりません。」

Q、では、チームとしての目標は。

岡村・吉井「当然、関西制覇です。関西選手権もリーグも。その上で全国の舞台で戦いたいですね。リーグ制覇は経験していますから、もう一度狙いたと思います。」

Q、個々の目標は。

岡村「FWとして起用されそうなので、1試合1ゴールです。形はいつでも構いません。泥臭くても1ゴールですから。」

吉井「守備で評価されるのは、失点数ですから、やはり無失点の試合を多く積み重ねたいです。」

Q、プレーの特長は。

岡村「ポストプレーですね。それとゴール前での嗅覚。FWとしてはですが。CBもしますので、そこも強みかな。」

吉井「相手との1対1の勝負に強い点です。カバーリングやフィードにも自信を持っています。」

Q、お互い相手を評すると。

岡村「吉井は、ヘッドが強い、というか上手



岡村和哉

吉井直人

いですね。間違いなくプロでやっていけるだけのモノはありますよ。」

吉井「岡村は、やはりチームのムードメーカー。天性の明るさで雰囲気を高めてくれます。プレーでは、大事な所で勝負を決める得点を奪ってくれるので、信頼度が高いですね。」

取材にも、いつもの陽気さで応じてくれた岡村と、落ち着き払った様子の吉井。対象的ではあったものの、物怖じせず、自分を主張する姿には好感を持ちました。

彼らは、来年には、Jリーガーとして活躍しているかもしれない素材。最終学年の今年、そのプレーを目に焼き付けておいて損はない。

2人の元Jリーガーがコーチに就任！！

今季の大院大には、ヴィッセル神戸などで活躍した吉村光示コーチと、名古屋グランパスやコンサドーレ札幌などで活躍された富永康博GKコーチが就任。指導体制が強化されました。今回はそのお二人に話を伺いました。

Q、コーチに就任されるキッカケは。

富永「もともと、現役時代からGKコーチという仕事に興味がありましたから。」

吉村「関西で長く生活を送ったので、関西での仕事に興味がありました。」

Q、大学サッカーについてはどう感じておられますか。

吉村「大人とも、子どもとも言えない微妙な年齢ですよ。だからこそ、選手たちには、自立を促してゆきたいです。」

富永「選手たちは、サッカーに対して真摯、ひたむきですね。」

Q、どんな指導を心掛けられますか。

吉村「いずれ、彼らは社会に出ます。その

時に、しっかりと社会人になってもらいたい。大院大サッカー部の卒業生は、どの世界でも認められる人間になって欲しいですね。」

富永「サッカーに打ち込んでいる学生の間は、真面目に、懸命にサッカーを頑張る姿を応援したい。そして、長い人生の中で、その姿勢を活かしてくれたら嬉しいですね。」



吉村光示コーチ、富永康博GKコーチ

【担当記者より】

昨シーズンは、最終節まで残留争いに巻き込まれてしまった大院大。ポジションのコンバートや選手の入替というカンフル剤が奏功し、自動残留をもぎ取った。今年は、絶対的な軸になる馬場悠(現・ファジアーノ岡山)のような選手は不在。レギュラーの内、半数を2回生が占める可能性もあるくらい、若返りを図っている。その意味で、勢いとその持続が肝要となる。新チーム結成以降、多くの練習試合を積み、経験を重ねながら課題の修正を行っている。

指導陣や加藤主将も語るように、メンタルタフネスが求められるシーズン。そのためには、苦境に立った時、チームとして何が出来るか、そこが今季の最大の鍵である。

(ハヤシ ヒロヒサ)



いざ全国へー 大教の新たな歴史を刻む



大阪教育大学

主将 大久保悟

1部リーグ2年目のシーズンを迎える大教大の闘将・大久保。「彼がピッチに入るだけで、グッと雰囲気が変わる」と入口監督も絶賛する。そんな大久保に今年のチームについて語ってもらった。

Q、大教らしさは

「大教はやらされてやっているのではなくて、自分たちでやっているんですよ。試合中でも状況を見て、一人ひとりが“強みを消して、弱みに潰れ込んでいく”ではないですけど考えながらやっていっています。みんな選手としてよりも指導者という先があるんです。」

Q、春休みはどのようなトレーニングをしましたか？

「2月の半ばまで全員でやっていて、ABと分けたのは3月上旬。みんなが率先して一緒にやりたいというので決めました。走るメニューが中心でしたが、みんなで支えあいながら、しんどいメニューにも下の回生もついてきてくれました。」

Q、今年の目標は？

「自分たちで大教の伝統を作っていきたいですね。今までの伝統もあると思うんですけど、やっぱりそれじゃあ勝てなかったと思うんですよ。だから今までの良いところを残しつつ、最初の文化を創るというのを意識して一年戦っていきたいです。」



実は。。部ログやってます！

大教大サッカー部ログを知っていますか！？昨年の11月からスタートしたこの部ログ。リーグ戦の結果や、チームの様々な情報を発信しているほか、新入生の質問にも真摯に応えてくれる大変有難いブログなのです。チームの決意表明など、真面目な一面もうかがえる部ログ、要CHECKです！

【大教大サッカー部ログ】管理人：4回生の南部選手

<http://blog.livedoor.jp/papua0818/>

公式HPもOPEN！管理人：2回生の篠田選手

<http://daikyoudaisoccerclub.web.fc2.com/top.html>



Rookies

MF柳掘琢也(ヴィクサーレ沖縄F.C)

ハードワークを駆使し、ボールを奪うプレーが売り。ディフェンシブな選手であるが、奪った後の切り替えや2列目からの飛び出しなど攻撃にも果敢に参加する。非常にタフな選手である。

MF岡本大輝(滝川第二高)

MFだけでなくDFもこなせるオールラウンドプレイヤー。戦術眼に優れ相手の攻撃の芽を早めに潰すことができる。また対人プレーにも強く迫力のあるプレーもできる。

Pick Up Player

大教至上最強タッグ！ DF 大久保悟主将 MF 三好洋央副将

最終ラインからチームを鼓舞する大久保、前線で体を張る三好。プレーヤーとして、また幹部として大教を支える二人に話を伺った。

Q、去年を振り返って

大久保「去年は一部というのが初めてで僕たちも初めてで、前期は対応できてなくて、時間がすぎていっただけであっという間に過ぎてしまいました。後期は何がだめでなにが良くて学習能力じゃないですけど、それに応じて対応できていた。そういう部分で大教大ができるんだというのが見せられたと思います。」

Q、ターニングポイントがありました

大久保「前期で一回ずつと負け続けている時期があつて、負けることはチームとしても悪いことじゃなかったんですが負け方が気持ちがいっていなかった。最初から“もうあかんやろ”って。でも後期最初の阪南、



関大、びわこ戦すごい気持ちがかもってたんですよ。最下位でしたし、多分どこよりも負けない気持ちは一番だったと思います。結局勝てなかったけど、そこで強い気持ちでいって負けから学んだ。負けからチームが1つになりました。」

三好「ミーティングをやつて、本音をぶつかったのが大きい。今まで何もいえなかった人が話すようになったのがでかい。意識的に代わっていったのがおおきいですね。」

Q、パフォーマンスは？

大久保「やっぱり自分がセットプレーだったりチャンスがあればとって勝利を呼び込む形で、得点に絡んでいけばと。あとは、イメージトレーニングじゃないけど、より具体的なことでイメージしていたら現実することあるじゃないですか。ゆりかごダンスにしても試合前日におねえちゃんに子どもが生まれて、絶対ゴール決めたらこれしようと決めて、本当に決めることができた。」

三好「今年もゴール後の大久保悟のパフォーマンスに注目してください。」

大久保「それは期待しておいて下さい。去年とは違った形でも考えています！」

Q、理想のプレーヤー像はありますか

大久保「僕自身、DFとしても背も能力も高くないですし。クレバーな部分を出していきたいですね。」

三好「常にボールに関与できる選手、守備



は苦手なんですけど、守備もしっかり頑張れる選手になりたいですね。あと、三好のフリーキックに注目！」

Q、目標を教えてください。

大久保「今年は出鼻くじかれたんで。今回うまくいかなかったのを逆に楽しんで、やってきたいなど。恩返ししてきたいですね。試合でじゃコンスタントに2点以上はあげないようなチームづくりをやつて守備力を上げたい。将来的にはなんらかの形でサッカーにかかわれたら良いと思っています。」

三好「去年より多く得点を獲るということに尽きます、将来的な目標はプロになりたいです。大教のよさをみんなに知ってもらいたい。そして、全国大会出場したいです。」

Over age!?

我々、大阪教育大学サッカー部は総部員42名中16人が浪人と約3分の1を占めています。関西の1部のチームでこれほど浪人生がいるチームは他にないでしょうし、浪人生の存在は我がチームの売りといえます。高校時代の先輩後輩が同学年になるというおもしろい現象もおこっています。

大阪教育大学は頑張れる選手が多いといわれることが多いのですが、このことは1度挫折を味わった浪人生の影響もあるのかもしれ



ません。長い受験勉強に比べると90分間走ることなどたいしたことではないですから。

現役生の勢い、浪人生の渋さのコラボレーションが我が大学の強さなのかもしれません。

(column:主務 林佑一郎)

【担当記者より】

昨年、前期最下位スタートから入れ替え戦の死闘を制し、這い上がってきた大教イレブン。まさに「大脱走」という残留劇だった。今年は絶対的な選手がチームをまとめる。「大久保、三好が4回生になった時がひとつの節目」と入口監督も全国大会出場を視野に入れ、チームは始動している。応用力をプラスした「堅守速攻」スタイルに磨きが掛かる。

取材を重ねるほど、大教大の監督、スタッフ、選手たちから真面目さやサッカーに対する熱い思いが伝わってくる。また土のグラウンドでも一生懸命ボールを追いかける姿には、監督も「泥だらけになりながらも文句1つ言わず、よくやってくれている」と褒め称えた。今年は何かプロジェクトを企画中だとか。プレーだけでなく、ピッチの外での彼らにも注目したい。

(久住真徳、藤本康寛)



We Love Rits



立命館大学

主将 福本尚純

昨年は実力を発揮できず、苦い経験を積んだ立命館だが「熱き男・福本」が主将に就任。彼を中心に、闘志・結束力が深まった立命館の復活に目が離せない。

Q、主将に立候補されたきっかけ、またどのようにチームを導いていきたいですか。

A、「チームが連敗の時期に、自身は入院中で何もできなかった。その時の悔しさから、自分にできることは何か、皆に影響を与えたいと思ったことが動機です。常に試合に出て、技術面でも精神面でもチームを引っ張り、中心に居られるようにすることです。」

Q、今年のチームの様子や特徴など教えてください。

A、「運営方法を見直し、幹部が4人から6人体制にかわりました。人数が多い分、各部員からの様々な声がひろえるようになり、チーム・個人としての意識が高くなったと思います。特徴としては、実力派の若手選手が揃っており、求めているものを確実に実行してくれる安心感がありますね。」

Q、チームのテーマは。

A、「『勝つために！』『勝とう！』です。去年の立命館とは違います！」



Rookie 藤原広太郎



DF 藤原広太郎
FC東京U—18出身
(都立高島高)

2008年、Jユースカップ準決勝進出に貢献した大型DFが加入。はるばる関東から京都へ来た若武者に、ルーキーイヤーの抱

負を語ってもらった。

「関東からも誘いがありましたが、米田監督に会ってとても評価してもらい立命館に決めました。入部当初は、スピードや体の強さの違いを感じましたが徐々に慣れてきました。僕の特徴は、試合中のコーチングであったり、しっかり守るところです。人数が少なくても守りきります。今年は、とにかく公式戦に絡んでいけるよう、結果にもこだわりながら全員で戦っていききたいです！」

■主将よりヒトコト■

「魂がこもっています。1回生ながらも、しっかりと後ろから声を出してくれる期待のホープです。」



■新人の洗礼？■

でかでかと名前を書いた白いシャツを着て練習する新人を発見！どうやら立命館の伝統になっているみたいです。わかりやすい！おそらく今年も6月頃まで着用予定。

Pick Up Player

関西を凌駕するレフティ! MF 内田昂輔副将



3年前、サッカーが大好きだった少年は、試合で何も出来なかった自分を悔やみ、涙をこぼした。総理大臣杯優勝、インカレベスト8、そして2部降格。1部へと復帰した翌年も残留争いへと巻き込まれ、入れ替え戦を経験した。3年前のあの日から数々の試練を乗り越えて成長した青年は、関西代表として選抜に名を連ね、名実ともに立命館のエースとなった。

今年、立命館のNo. 10を背負う内田昂輔。立命館の黄金期を知る最後の世代であり、副主将としてもチームを牽引する彼に大学リーグ最後に懸ける意気込みを語ってもらった。

Q、まずは昨年を振り返って

A、「前期は怪我で試合にも出れず、後期もむっちゃ苦しかったですね。チームのやろうとすることの軸がなくて、その場その場だけの対応で、みんなでひとつの方向に向けてやるというのが定まっていませんでし

た。」

Q、初めてのデンソーカップは

A、「周りの選手みんなが上手くて新鮮なものを感じました。チームとは違ってボランチをやっていたので、サイドチェンジなど展開することに気をつけてプレーしました。ただ、九州選抜の永井にはやられましたね。」

Q、1回生の時に、ブラジルへ短期留学も経験していますね

A、「高校の時の指導者の紹介で地元チームの練習に参加しました。向こうの選手は激しいし、ハングリーで泥臭いプレーをします。この経験は今の自分にも生きています。」

Q、入学当初より体が一回り大きくなりましたね

A、「本当ですか(笑)しっかりトレーニングはやってますね。そして、温泉に行ってリフレッシュします。」

Q、何か秘密の特訓をしているのですか

A、「昔の中村俊輔選手のビデオを見てます！」

Q、これまでの自分を評価するならば

「まだチームにこれというものを残せていない。入れてもらっていることに感謝しています。今年こそは結果を残したいです！」

Q、副主将にも就任しました

A、「幹部になって、“引っ張らなあかん”と意識も変わりました。出来るだけ細かいことまで気を配って、個人個人のケアや声を聞くようにしたいと思っています。」

Q、今年、チームはいかがでしょう

「今は、守備をメインにやっています。去年はだらだらした感じがあって、ずっと“変えたい”と思っていました。勝つにはどう

するか。細かいところまで追求していきたいです。」

Q、今年目標の“遊び心”というのは

A、「余裕を持ってプレーすることです。柔軟に対応してプレーすることが大事。そして何よりも一番にサッカーを楽しみたいです。」

Q、開幕戦は2年連続関大です

A、「僕自身としては3年前の関大戦が記憶に残っています。5分くらいしか出れなくて・・・悔しかったですね。今年こそは絶対勝ちます！」

Q、応援して下さる方に内田昂輔をアピールしてください

「やっぱり左足を見てほしいです。そして、泥臭いプレー。僕はエリートじゃないんで雑草魂を見てほしいですね。そして立命館が“変わったな”と思えるようにしたいです。今年は、勝ちます！！」



アスリート食、はじめました。

立命館といえば、スポーツの盛んな大学。アメリカンフットボール部、ラグビー部などが先駆けて導入していたアスリート食を大学の強化指定クラブであるサッカー部もようやく取り入れることになった。

立命館は実家から通う選手も多いため、ランチタイムに部員一同仲良く食卓を囲む。大学食堂の栄養士・武部さんが考えたメニューは「野菜も多く、カロリー計算されていて、とても良いです。」と選手からも好評だ。



また、「原谷(練習場)の管理人さんが変わって、お風呂を炊いてくれたり、靴箱とか作ってくれるんです」と福本。小さなことではあるが、立命館の改革は始まっている。

【担当記者より】

常勝立命館の時代は過ぎ、2部降格、入れ替え戦と苦しい時代を乗り越えてきた。その中でも昨年は1回生が頭角を現し、ユース出身の加藤、篠原や、藤田、伊藤の2トップが立命館を救ったといっても過言ではない。今年はさらに提携した京都サンガユースの選手など、多くのユース出身選手が技巧派揃いの立命館に加入する。

寿命を過ぎた人工芝や、サッカー部専属というものには他の私立大学に比べて少ないだろう。決して恵まれた環境にはないが、練習を行う選手たちには笑顔が溢れていた。立命館伝統のつなぐサッカーには、チームワークが必要不可欠。強気な主将・福本を中心に栄光と挫折を知る4回生、頼りになる若手選手の融合した立命館の爆発に期待したい。
(久住真穂、藤田望)



le temps de renaissance!

大阪体育大学

主将 松本良太



4回生中心で総理大臣杯を獲った昨年のチームから、メンバーが大幅に変わる大体大。その新チームを牽引するのが松本良太。1部への再挑戦へ向けて、意気込みを尋ねた。

Q、まずは、主将として心掛ける事を教えてください。

A、「自分も含め、最上級生が、チームのベクトルを同じ方向に向けてゆく。そこから始めたいと考えています。」

Q、去年のチームからレギュラーが多く抜けましたが。

A、「全く不安が無いとは言えません。特に、DF4枚とダブルボランチ、後方で守備を固めた6人がごっそり抜けましたから。そのため、今はレギュラー争い、競争の渦中ですね。新人戦で健闘したメンバーも加わって、誰がレギュラーになってもおかしくないぐらいです。戦い方としては、3バックなのか4バックなのかも現時点では模索中。そこは選手の適材適所になってくるかと思っています。」

Q、目指すサッカーのスタイルと目標をお願いします。

A、「大体大らしい、1対1では負けない部分は徹底しています。対人能力の高さが長所になります。攻めはポゼッションを志向したいですね。守備に関しては、縦への突破を許さない組織的な守りが軸になります。今年の目標は、やはり先輩たちに続いて、全国の舞台に上がりたいと思っています。」

Rookies

MF 濱上 孝次

(清明学院高)

「プロになれるように頑張ります。」



FW 木下 諒 (清風高)

「出場出来るように頑張ります。」

FW 脇 睦 (三重高)

「Aチームに残れるように頑張ります。」

【担当記者より】

昨年、関西2部所属ながら全国制覇を成し遂げ、3人のリーガーも輩出した。その分、今年のチーム作りは楽ではないだろう。攻守両面における1対1の強さを基軸に、鍛えられたフィジカルがあるだけに、局面の勝負で競り負けて崩れてゆく事はないだろう。時間が掛かるのはピッチに散る11人(もちろんサブの選手も含めての話になるが)の戦術や試合運びの共通理解になる。この部分がスムーズなら、昇格チームとは思えない強さでリーグを席卷するだろう。

鉄壁の守備陣は卒業したが、スピードが武器の攻撃陣は残った。その攻撃的なサッカーを楽しみにしたい。

(ハヤシ ヒロヒサ、谷口達也)

Column ～大体大を支える応援History～

サッカーは11人だけでは出来ない！
1965年、部員11名でスタートした大阪体育大学サッカー部は、1974年に1部に昇格し、初めてインカレ出場権を得た。準決勝で早稲田大学に敗れたが、3位決定戦では関東リーグ優勝チームの中央大学に勝利し、全国3位の成績を収めた。

全国の初舞台での選手たちは緊張と不安でいっぱいだった。そんな時にピッチにいる選手に、夜行バスでかけつけた応援団の声が届いた。メンバー外の選手たちが彼らなりにチームのために出来ることを見つけ、応援という形で試合に参加してくれた。イレブンの心にしっかりと応援の声は届き、仲間からの熱い気持ちを感じ取り、見事に勝利し、結果を残すことができた。

以後、当時西ヶ丘サッカー場では、両タッチラインにダッグアウトがあり、その上で我々チームのシンボルマークである亀の甲羅をたらいに描き、それを背負って必死に応援するスタイルは後輩に受け継がれた。その頃流行った「ヤングマン・YMCA」をモジリ「OCPA・Osaka College of Physical Education【現在はOUHS】」の一文字踊りも

ユニークな応援の一コマであった。

当時、大学サッカーの場に応援というものはなく、しらけたムードの中で戦っていたが、大阪体育大学発の部員の応援の熱意とユニークさ、さらにドイツ留学から帰った当時のコーチ直伝のブンデスリーガの応援スタイルは、後に関東リーグ、関西リーグ、さらに高校へと拡がりを見せ、今ではなくてはならないものとなっている。

サッカーの試合で応援をするというのは当たり前になった。しかし、選手の中や、周りで当たり前にあるものほど大切なものはないと、これまで数々の試合を通して、応援してもらえる喜びを何度も実感した。

毎日同じ環境で過ごし、一緒に厳しい練習を積み重ね、互いを高めあい、切磋琢磨する日々の中ではライバルだが、一步応援席へと行けば誰もが仲間となり、ピッチにいる選手の勝利を祈り精一杯応援する。プレーしている選手は応援してくれる仲間に普段は言えないけれど「ピッチの中の11人だけ



じゃ勝てない」。苦しいときはいつも応援席から声を出してくれる姿に励まされ、「ありがとう」という気持ちをもち続けながら、懸命に戦っている。

今日もグラウンドでは部員全員がレギュラー争いをしながらひたむきに頑張る。今年のリーグでもどこのチームにも負けない応援で支えてくれる仲間がいる。選ばれたメンバーはチームの勝利のために全身全霊を込めて戦い抜く。



(column:主務 喜多成子)

Pick Up Player

高速ドリブラー、再び全国へ！ MF 村田和哉

村田の快足ぶりは1回生の頃から、観客を魅了していた。当時は、空いたスペースへの速さが目立っていたが、その後進化を遂げる。DFにマークされた状態からでも、スピードで縦に抜け、振り切る。解っていて止められない速さが今年も観られるか。

Q、今年も、ドリブルでの勝負を期待して良



総理大臣杯優勝を喜ぶ村田(右)と藤春(左)

いですか。

A、「サイドでの勝負や、チャンスメイクには、こだわりたいです。サイドは必ず制したいと思っています。加えて、そこから得点まで持って行きたいですね。」

Q、ドリブルに秘訣のようなものはありますか。

A、「単純にスピードだけではなく、相手との駆け引きや、周囲の味方を上手く利用して突破するように考えています。」

Q、今年の大体大では、そのドリブルが大きな武器になると思いますか。

A、「3回生になって、後輩を引っ張る立場にもなって来ます。それに、今年も全国の舞台には上がりたいと思っています。そこで自分の力が活ければ良いです。」



Q、個人として魅せていきたいという気持ちもありますよね。

A、「観客や、応援してくれる人はもちろん。プロのスカウトにも印象を残したいですね。そういう高い目標は持っています。」
有難うございます。



主将 西之宮慎司

1部昇格組の挑戦者としてチームを率いるのは、FW西之宮慎司。昨年、2部リーグの優秀選手に輝いた西之宮のゴールにも期待したい。

Q、久々の1部リーグですね

「去年は先輩たちが中心に出て、ほとんど引っ張ってもらったという感じでした。去年は安定感のあるチームでしたが、僕らのほうが乗ったら爆発力はあると思います。突出した選手がいない分、仲間意識が高いですね。」

Q、今年のチームの特徴はどこでしょうか？

「間違いなくチームワーク。全員で戦っていきます。」

Q、主将としてどのようにチームを引っ張っていきたいですか
「決してうまい方ではないと思うのですが、出続けて信頼されるようになりたいと思っています。」

Q、1部昇格の一年目、目標を聞かせてください。

「まずは1部残留。上位チームを倒して、番狂わせをしたいです。台風の目となって1部リーグを楽しませたいです。大産大のひたむきなところ、泥臭いところ、粘り強いサッカーをぜひ見てください！」



Rookie MF伊藤秀人

Q、大産大の印象は？

「前の監督さんが『みんな真剣にサッカーに集中しているチームだから』と声を掛けてくれて、それが決め手になりました。実際に入ってみて、スピードや、パス、フィジカルが高校とは違うなと感じました。攻守の切り替えも早いですね。」

Q、伊藤選手のプレースタイルを教えてください。

「がむしゃらですね。ボランチなんで、攻撃の基点となり、守備でも相手の攻撃に目を摘みたいです。攻守において常に顔を出したいですね。あとは運動量で勝負したいです。今年の目標は、試合に出ることです！新人らしくフレッシュに、一日一日を大切に、好きな言葉である“努力”をして、関西選抜にも選ばれたいです！！」



【担当記者より】

大産大が久しぶりに1部の舞台へ戻ってきた。この4月から櫛引氏が正式に監督として就任し、ようやく体制が整った。取材時点の3月では、練習試合で大教大にも勝ち「仕上がりは順調過ぎるくらい」と櫛引監督。新生大産大の船出に注目したい。
(久住真穂)

Pick Up Player

1部で魅せます！ GK朴寛明 MF橋章斗

今年背番号10を背負う橋と、関西選抜Aで優勝を経験した朴。攻守のキーマンに、直撃した。

Q、昨年を振り返ってみて

橋「去年は圧勝していたので、あまり印象がないですね。」

朴「去年はCBのキャプテンが前で止めていてくれて、目立つところがなかったし、今年は自分がやらなあかんと。チームとしては、卒業した先輩が中心だったので大幅にメンバーが抜けて、今年はチーム全体でやっていかないといけないと感じています。」



Q、初めて大産大を見る人も多いと思います。どんなチームか紹介してください。

橋「あきらめない、粘り強いサッカーです。僕自身、大産大に入って一番感じたのが、体を強くしないと潰されてしまうこと。筋トレや走ったりして強化してきました。それで心も体も鍛えられたんだと思います。」

朴「スタイルはとにかく走る。そこから自分たちのリズムを掴むサッカーですね。」

Q、では、お二人のプレイスタイルは

橋「ファーストタッチで次のプレーにすぐいけるように、キックとゴールを目指す意識ですね。」

朴「キックです。キックしかありません。」

Q、朴さんはデンソーカップにも参加しましたね。

朴「優勝したことは本当に良かったです。練習から雰囲気良くて、ミーティングなどもあってチームがひとつになった気がしました。個人的には出場は少なかったけど、練習から質の高いサッカーだったのでレベルを上げられました。みんなの良い部分を盗みました。」

Q、今年の目標は

橋「チームに貢献するため、点をアシストし

たい。それが達成できたら、自分のためにもチームのためにもなる。でもシュートを意識するゴールへ向けたプレーがまだまだ。今年はスター選手がいない分、攻撃も守備もチーム一丸となってやるしかありません。チームワークは通用すると思います。精一杯、頑張ります！」

朴「目標はでかく、インカレです。リーグで、上位争いに食い込みたいです。個人としてはもっと前に出るプレーをしようと。課題はDFとの連携。それをクリアして、もっと速いサッカーができれば一部でもいいところに行くと思っています。」

Q、宣言をひとつお願いします。

朴「個人的には、一昨年への入れ替え戦で阪南大に負けたことが悔しいというのが強く残っています。今年のリーグ開幕戦の相手が阪南大なので、雪辱したいです。そして開幕戦、無失点！」

橋「朴と同じで悔しい思いはあります。開幕戦、阪南大に勝ちます！」



一部への軌跡

入れ替え戦で破れ、1部との差を痛感した2年前。その悔しさを糧に1年の長丁場になった2部リーグに挑んだ。1部チームにとっては、一年間“落ちない”保証付きだが、2部を戦う選手たちにとっては、レベル差の激しいリーグで戦わなければならない。

大産大は安里晃一(現・Mioびわこ草津)を中心に4回生が活躍。途中、監督が交代することとなり指揮官が不在のまま練習する時期も、選手たちが自主的に練習やチームとしての方向性を考え、この危機を乗り越えて来た。その結果、指揮官が不在の中、16勝2分と圧倒的な強さを誇り、無敗で一部昇格を決めたのだ。この2部での貴重な経験は、必ずや1部を戦う上で生きてくることだろう。

大産名物!?走りこみトレーニング!

大産大の練習メニューには2種類の「走りこみ」がある。一つはキャンパス(写真)から数キロ先の生駒山頂にある練習場まで走るのだ。こちらは交通量が多いため、重要な試合前など追い込みの際に行うそう。

もう一方は、深北緑地公園での走りこみだ。1周700mコースを10周する。毎週行うため、最初は多くの部員が並んで走ることを嫌がられたこともあったが、最近では近所の方々から「おにいちゃんたち頑張

れー」と声を掛けてもらうことも増えたそう。

リーグでは走りこみで鍛えた大産魂を見せることができるか。



SEASON START ～戦いの幕開け～

12の大学が、1つの王位を争う9ヶ月！！

己のため、仲間のため、支えてくれる人たちのため…、
全身全霊をぶつけた激戦が、2009年4月11日、始まる！！



阪南大学の2008年度リーグ制覇から、5ヶ月。
大阪体育大学が夏の全国を制覇し、インカレでは関西3大学が初戦で涙した08年。
2009年度の王者は？ 関西勢は再び全国で戴冠できるか？
桜満開の春。今年もすべての選手、すべてのチームが頂を目指して走り出す。
1つのゴールに歓喜と落胆があり、1つの勝利に笑顔と涙が溢れる。

関西1部リーグ所属の12大学の開幕前を総力取材。
それぞれの、意気込み、横顔、背景、新星などを紹介する。
そして、注目の開幕節を、関係者の言葉をもとに展望する。

——You'll Never Walk Aloneを胸に戦い、
We Are the Championsを最後に歌うのは誰だ——